

人も自然も、寺岡地区



森林レンジャーあきる野が発足してから今年で11年目となります。郷土恵みの森づくり事業として始まった景観整備や昔道整備を続けている自治会があります。今回は、寺岡自治会の景観整備を紹介します。

地域の方の心地よい環境づくりとしての整備は、藪を刈りはらうことでツキノワグマ、イノシシ、シカなどの大型哺乳類の隠れ場所を作らないことから、地域の暮らしの安全にもつながっています。

また、整備の際には、希少な小動物が利用するススキ原の一部を残していただき、生物多様性に配慮した整

備にご協力いただいています。

余談ですが、この地区には草刈り?の強力な助っ人であるヤギのハムちゃんがいるので、作業の合間の癒しもあるんです(^▽^)

夏には、別の場所で発見した準絶滅危惧種の植物への保全にもご協力いただきました。皆さま、お疲れさまでした!



↑ 植物を柵で保護

野生動物のための森、今



2013年冬 植樹



2014年夏 下草刈り



現在

森の子コレンジャーと始めた自然のための活動として「ビオトープ」と「野生動物のための森」があります。ビオトープは、毎年コレンジャーやOB・OGと整備を続けています。森は、人が暮らす場所から離れた人工林に、コレンジャーが育てた苗木(ドングリのなる木)を植樹したのが8年前ですが、自然は厳しく、植樹した苗木の内22%がひっそりと生育してくれています。

植樹後は下草刈りをOB・OGと続けていましたが、苗木を食べるシカの痕跡を多く見るようになってからは、レンジャーで苗木のまわりの草だけを刈り、森の様子を子どもたちに報告しています。苗木のまわりの草を刈りを

はじめてからはシカの痕跡は減少しました。昨冬には、周辺の森で整備が行われることになり、森林組合のご協力をいただき生物多様性と苗木に配慮した伐採を行うことができました。伐採後、林床には更に光が入る様になり、フユイチゴ、サンショウなどの多様な野生動物の食物となる実をつける植物が一気に増えました。

人工林をスポット的に伐採し、ドングリのなる木を植えた森が、少しずつでも着実に変わっているのを感じています。今月開催するビオトープに集う同窓会では、子どもたちの想いと共に守り育てている森の様子を報告したいと思います!

第10期森の子コレンジャー（ようやく）始動!



コレンジャーが9月下旬に始動しました!今年も感染症対策でお互いに気をつけることがあり、始動式ではピンとした緊張感がありましたが、野外に出ると自然がみんなの緊張をほぐしてくれました♪

夏(セミ)と秋(コオロギ)の共演を聞きながらのお昼ご飯、鷹の渡り、季節の草花、アキアカネやツマグロヒョウモンなどの昆虫、みんなと追いかけたバッタ…たっぷり季節の自然を体と心で感じた一日となりました。

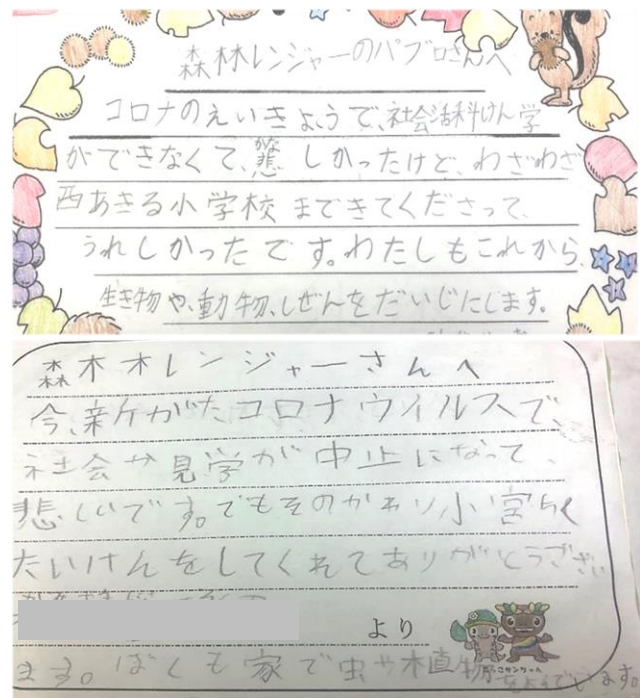
自然や子どもたちの今と未来につながることを信じて、今月も引き続き活動したいと思います!

市内小学校の小宮地区体験学習

9月から開始した市内小学校の小宮地区体験学習は、9月に3校の出前授業、10月に、3校の自然体験と1校の出前授業を実施しました。

自然体験では、昨年の台風で崩壊した学習ルートが復旧したことで、安全に活動することができました。今年の子供たちは、森について知ったこと以上に、水分補給でマスクをとった時の森の匂いや、湧き水の冷たさに感動していたことが印象的でした。出前授業では、自然界の生き物や出来事を知り「自分もがんばろうと思った」と話してくれた子がいました。体験を終えて届いた感想を読むと、自然に触れ合ったり共感できる体験は、今の子どもたちに「勇気や希望」を与えているのだということを感じます。

今年度の市内小学校の体験学習は、11月の2校で終了となりますが、できる限り、子どもたちに郷土の自然を紹介したいと思います!



今秋の注目! アケビ

今年は、市内のクリが美味しいだけではなく、地域の方からカキがとっても甘いよ!という話も聞きます。ドングリは昨年よりも実りが良く、たくさん落下しているのを確認できます。

秋の実りの中で、今秋の注目はアケビです(写真はミツバアケビで10月22日撮影)。市内の森のどこを歩いてもたわわに実っていました。

名の由来は、熟すと縦に割れる様子から「開け実」の意味で名付けられたという説もあるそうです。実はツキノワグマを始めとする野生動物の秋のごちそうで、アケビの小さな種子にはエライオソームという白いゼリーが付いており、これはアリのごちそうです。哺乳類がフンとしてたくさん落としたタネを、また別の場所に運んでもらうためのアリへの報酬(〜♪

この時期の哺乳類のフンにアケビの種子があれば、アリがエライオソームをモグモグしてから、種子を運ぶ姿を観察できるかもしれません。